国民的日本酒イベント、今年も絶好調！

オンリーワンの豪華ダブル企画で外人ファンも急増中

日本酒造組合中央会
JAPAN SAKE AND SHOCHU MAKERS ASSOCIATION

全国の國酒・日本酒が一同に結集する「日本酒フェア 2019」が6月 15 日、東京・池袋のサンシャインシティで開催されました。鑑評会入賞酒のきき酒＆全国の地酒の試飲販売という、まさにオンリーワンの豪華ダブル企画。国内はもちろん、外国のファンも急増中の超人気イベントは、華やかにパワフルに、今年も絶好調！

國酒・日本酒の魅力全開。「JAPAN SAKE WEEK」の試みも

来場者と共に日本酒で一斉乾杯！の大合唱（全国日本酒フェアの会場で、正午と午後 6 時の 2 回）。発声は日本酒スタイリストの島田律子さん（壇上、右端）と、第 38 回全国きき酒選手権大会の個人の部優勝者・高橋嗣明さん（同左端）、2019 ミス日本酒の春田早重さん（島田さんの左）と準ミスの塚原菜実香さん。

■ 「日本酒フェア」は、❶全国新酒鑑評会の入賞酒を網羅した「公開きき酒会」（主催＝日本酒造組合中央会／後援＝内閣府知的財産戦略推進事務局、外務省、国税庁、観光庁、独立行政法人酒類総合研究所）と、❷全国 45 都道府県の酒造組合が自慢の地酒をサービス・販売する「全国日本酒フェア」（主催同。後援は酒類総合研究所を除く）をドッキングした唯一無二のイベント。13 回目となる今回は、日本酒初心者向けの「はじめての日本酒コーナー」新設や、日本酒セミナーの大幅拡充、さらには県組合のイベントと連携した「JAPAN SAKE WEEK」の設定など、新たな企画が盛りだくさん。美味しくて、面白くて、勉強になる“おもてなし精神”満点の企画で國酒・日本酒の魅力をアピールしました。■

「JAPAN SAKE WEEK」は今回が初の試み。日本酒フェアの前後に県組合のイベントを集中開催し、それぞれの相乗効果で、この期間を日本酒一色に染め上げようという狙い。

あいにくの雨模様の中、来場数はほぼ昨年並み

「日本酒初心者が自分なりの基準を作るキッカケにしてほしい」という目的で新設された「はじめての日本酒コーナー」。参加者の中には、試飲と蔵元の説明で「好みのタイプを発見できた」という若者も。

特設会場2部屋を使って行われた日本酒セミナー。昨年の8回から、今年は14回にコマ数を拡大(詳細は5P)。

20 分で 7 種類の日本酒をマッチングする「きき酒チャレンジ」コーナー。昨年から始まった人気企画で、外国人も興味津々。

平成 30 酒造年度全国新酒鑑評会の入賞酒を「公開きき会」

■「全国新酒鑑評会」は、1911 年にスタートした最も権威ある日本酒の鑑評会。108 回目となる今回の審査では、総出品数 857 点のうち 416 点が入賞、うち 237 点が金賞を受賞しています。その鑑評結果をいち早く一般に紹介したのが、日本酒フェアの「公開きき酒会」(第 1 部＝10:00～13:00、第 2 部＝15:30～18:30。完全入替制)。今回も、地域別 8 ブロックに分けて入賞酒のほぼすべてが一挙公開され、来場者はきき猪口と出品リストを手に、出品酒の出来具合を確かめたり、他の関連企画に目を向けたりして、きき酒を楽しんでいました。■

パネル展示や各種パンフレットで酒造に関する様々な知識を紹介した醸総合研究所コーナー。

酒パックのリサイクルや酒造技術の解説コーナー。疲れたら、日本酒ビデオを見ながら一休み。

分からないことがあったら質問コーナーへ

風評被害払拭へ、日本酒の安全をPR

世界にはばたく國酒の証「JSS」の紹介も

第13回「全国日本酒フェア」。45都道府県酒造組合が多彩なPR

■「全国日本酒フェア」では、鹿児島、沖縄を除く45都道府県の酒造組合がブースを並べて、地域色いっぱいのPR合戦（他に日本酒造協同組合連合会など関係6団体と、漬物、珍味、調理食品の協賛3団体が出展。入場は2部入替え制／第1部10：00～13：30、第2部15：30～19：00）。ブースの正面に、県ごとに定めたPRテーマを掲示し、独自のアイデアで出品酒の試飲と販売、特産物の販売など、多彩なサービスを繰り広げて来場者をもてなしました。ある来場者は「どのブースも時間と知恵を掛けているなと感じた」と感想を語っていました（来場者の感想は6P、各県ブースの風景は7P～）。■

県別PRテーマの一例。地元の食や自然、GI（地理的表示）など、それぞれの得意分野をアピールしたものが多く見られました、看板の右橋に見えるマークは、中央会が参画している「beyond2020プログラム」の認定マーク。「2020年以降を見据えた地域文化のレガシー創り」をめざす。

県のキャラクターを登場させたり、和服の美女を華やかさを演出したり

おつまみのサービスや特産品の販売も各県各様

◀ 試飲販売とともに来場者を楽しませたのが、様々な展示企画。❶ 歴代総理の「國酒」揮毫色紙コーナー、❷ 各地域の酒蔵ツアー情報の紹介した酒蔵ツーリズムPRコーナー、❸ 日本各地の酒蔵を描いた酒蔵淡彩スケッチコーナー、❹ イートイン・おつまみコーナー

日本酒や酒蔵グッズが当たるアンケート抽選会

県産酒 PR や杜氏対談など、計 14 回の講座（日本酒セミナー）

会場はサンシャインシティ・ワールドインポートマート 5 階コンファレンスルームの 2 部屋

■ 毎回、人気の高い日本酒セミナー。今回は「日本酒教育の充実が需要拡大の基本」という考えから、コマ数を大幅拡大。県産酒の PR や杜氏対談、日本酒文化や新しい楽しみ方などをテーマに、計 14 回（1 回 30 分）の講座が行われ、参加者は、試飲や試食なども楽しみながら、各講師の話に熱心に聞き入っていました。■

■№1 日本酒 Bar『GEM by moto』の千葉麻里絵さんと中央会の宇都宮理事が、日本酒だからこそできるペアリングをテーマに楽しい対談

■No.2 新潟県醸造試験場・金桶光起場長は、県の酒米「越淡麗」の開発秘話や、世界初の新潟大学日本酒学の概要などを紹介。

■№3 「awa 酒を世界の乾杯酒に」を目標に活動する(一社)awa 酒協会の永井則吉理事長は、「2025 年までに 130 万本を売り上げる」と、意欲満々のアピール。

■№4 宮城県酒造組合の佐藤曜平氏は、全国新酒鑑評会金賞受賞率 3 年連続日本一となるまでの宮城県産純米酒の歩みを紹介。

■№5 日本酒とワインを較べて、それぞれの特徴の違いを知れば、どちらもより美味しく楽める」と楽しみ方を伝授。（独法）酒類総合研究所の後藤奈美理事長。

■No.6 京都府酒造組合連合会の田島善史氏は、20 年ぶりに復活した京都オリジナル酒米「祝」による酒造りの取組みなどを紹介。

■No.7 京都市・木下酒造㈲杜氏のフィリップ・ハーパー氏のセミナーは主に外国人対象。日本酒グローバリズムの進展への期待を語りました。

■№8 「灘五郷」の酒の特徴や、GI「灘五郷」の運用と指定に至るまでの取り組みを紹介したのは、GI灘五郷管理運営委員会の梶原大輔氏。

■№9 杜氏対談は定番人気プログラム。今回は秋田県・阿櫻酒造㈱の照井俊男杜氏(右)と長野県・㈱角口酒造店の木村裕社専務取締役が酒造りの苦しい話。

■№10 島根県酒造組合の毛利章需要開発委員長は、「日本酒発祥の地しまね」と題して、古事記から始まる島根の酒造りの長い歴史を紹介。

■№11 酒類総合研究所の山田修品質・評価研究部門長は、平成 30 酒造年度全国新酒鑑評会の結果や審査方法などを解説。

■№12 油長酒造㈱の山本嘉彦社長（左）と倉本酒造㈱の倉本隆司専務は、「奈良県酒造組合」による酒造復活の取組みを詳しくご紹介

■№13 熟成古酒の歴史と魅力を、試飲も交えて紹介したのは、長期熟成酒研究会の梁井宏顧問（右）と同研究会の伊藤淳・事務局長。

■№14 最後は、7 年連続で「全国新酒鑑評会」金賞受賞数日本酒一に輝いた福島県産酒の話。講師は福島県酒造協同組合の鈴木孝市需要開発委員。

SAKE FAIR 2019 来場者の声 日本酒フェア2019

売り切れるの早すぎ。でも、たくさん試飲できたので良かった。

▪ 全国新酒鑑評会の会場で

・旅行業界で仕事をしています。蔵元ツアーみたいな企画もやってみたいと思っているので、日本酒には関心があります。このイベントは 2 度目ですが、どの地域のお酒も本当にレベルが高いと思います（旅行業、女性）。

・初めて、お友達に連れてきてもらいました。日本酒は前から好き。出品点数が多いのでにビックリしましたけど、すべておいしい。関東のお酒が結構がんばっているなと感じました（一般、女性）。

・これだけハイレベルなお酒をいっぺんにきき酒できるのはこのイベントしかない、と聞いていたので前から来たいと思ってました。地域の味の違いなども分かって来た甲斐がありました（小売店、女性）。

・素人でも分かるように、リストの中に出品酒ごとの特徴をワンポイントで説明してもらえるとありがたい。日本酒度とか何トカ度とか言われても、具体的な味がなかなかイメージできない（一般、男性）。

▪ 全国日本酒フェアの会場で

・日本酒歴、まだ一年生。もともとはカクテルが好きなんですけど、日本酒には日本酒のおいしさがあるって、わかりました。

・「はじめての日本酒コーナー」でいろいろ教えてもらって、ああ、私の好み軽快なタイプだなって気がつきました（一般、女性）

・楽しかった。おつまみのサービスもよかった。県のブースも、みんな時間と知恵を掛けているなと感じた（「全国日本酒フェア」で。一般、女性）。

・2 年前に北陸を旅行して、日本酒にはまりました。北陸のすっきりした味が好きなんですけど、今日いろいろな県のブースを覗いてみて、地域や蔵でこんなに違うのかと驚きました（一般、女性）。

・フェイスブックで情報を見て、友だちと 2 人で来ました。でも、売り切れるのが早すぎ。一回りして後で買おうと思っていたら、もうなくなっていた。でも、たくさん試飲できたので、その点は良かった。結局、楽しかった（一般、女性）。

▪ 日本酒セミナー参加者の声

・長期熟成酒のセミナーが面白かった。前から興味があったんですが、熟成、中熟、淡熟の 3 タイプを飲み比べさせてもらって、やっぱり面白い酒だなって思いました。うちの店でも、本気で品揃えしてみたくなりました（料飲、男性）。

・日本酒のペアリングって、こんなに多彩なのかと驚きました。味覚は想像力が大切なんですね（一般、女性）。

・7、8 コマ参加しました。それぞれに興味深かったけど、印象に残ったのは杜氏さんの対談と菩提酛の話。どっちも酒造りの難しさ、奥深さが分かって、日本酒に誇りを感じました。35 年のベテラン杜氏が若手杜氏と同じように、今でもどんな酒ができるか不安だって、すごいことだと思いますよ（一般、男性）

▪ きき酒チャレンジコーナー参加者の声

・よくわからなかったけどクイズみたいで楽しかった。きき酒は初めて。（一般、女性）。

・簡単すぎ！もちろん全問正解。蔵元に 2 週間も住み込んで、造りだって手伝わせてもらったこともあるほど、日本酒大好きの私です。もっと歯ごたえのある問題を出してもらわなきゃね（フリーランス、女性）。

・香港から来ました。きき酒は初めてだったけど、わりあい当たったかな。国の仲間はいま大変なんです。みんな、日本酒送るからね、加油、加油！（留学生、男性）。

第13回 全国日本酒フェア

各県酒造組合・関連団体・協賛団体の出展風景

都道府県酒造組合(連合会)のブースから

北海道

青森県

岩手県

秋田県

宮城県

山形県

福島県

群馬県

栃木県

埼玉県

茨城県

千葉県

東京都

神奈川県

山梨県

長野県

新潟県

福井県

石川県

富山県

静岡県

愛知県

三重県

岐阜県

滋賀県

京都府

大阪府

奈良県

和歌山県

兵庫県

岡山県

広島県

鳥取県

島根道

山口県

愛媛県

香川県

徳島県

高知県

福岡県

佐賀県

長崎県

大分県

熊本県

宮崎県

関係団体・有志グループのブースから

一般社団法人 awa 酒協会

東京農大花酵母研究会

長期熟成酒研究会

全国燗酒コンテスト実行委員会

ワイングラスでおいしい日本酒アワード実行委員会

純粋日本酒協会

日本酒造協同組合連合会

協賛団体のブースから

全日本漬物協同組合連合会

全国珍味商工業協同組合連合会

全国調理食品工業協同組合